

症例報告

## 口腔衛生管理によって義歯を装着できた肉芽腫性エプーリス患者の1例

丸山直美 村上幸生 川田朗史  
大井優一 片山直

**抄録：**エプーリスは歯肉に生じた炎症性・反応性の限局性増殖物である。今回、口腔管理によって義歯を装着できた肉芽腫性エプーリス患者の1例を経験した。患者は56歳の女性で下顎前歯のざらざら感を主訴に来院した。同部には歯頸部領域を覆う歯石が沈着し、上顎前歯部には胡桃大の弾性軟の腫瘤を認めた。上顎前歯部良性腫瘍、慢性歯周炎と診断し、歯口清掃指導と専門的機械的歯面清掃のち腫瘍を切除した。病理組織学的には肉芽腫性エプーリスであった。歯口清掃指導（TBI）を再度徹底して行ったところ、患者が歯口清掃に積極的になり口腔環境が改善したため上下顎可撤性義歯を作製できた。

**キーワード：**エプーリス 口腔衛生管理 歯口清掃指導 義歯装着

### 緒言

歯口清掃は口腔の健康を維持する上において大変重要な技術である。歯口清掃を怠ると口腔環境は悪化し、歯垢、歯石の沈着、歯周炎の罹患、歯の動揺が出現し摂食障害を引き起こす。一方、エプーリスは歯肉に生じた炎症性・反応性の限局性増殖物を総括したもので、歯垢・歯石、歯周疾患、補綴物、残根などによる慢性刺激が発症原因として考えられている。上顎前歯部に好発し、大きくなると対合歯または食物などと接触し出血を繰り返し、表面に糜爛や潰瘍を形成する。口腔環境が改善されないと切除後に再発することもある<sup>1)</sup>。

今回、慢性歯周炎患者の上顎前歯部に発症した比較的大きな肉芽腫性エプーリスを切除し、エプーリス再発防止のための徹底した歯口清掃指導（TBI）を通じた口腔衛生管理により口腔環境改善後に義歯を装着できた症例を経験したので報告する。

### 症例

患者情報：56歳、女性。

初診日：2013年1月。

主訴：下の歯がざらざらする。

現病歴：2年前に11が脱落し、その頃から歯が動揺するようになった。最近になり下顎前歯部のざらざら感と上顎前歯部歯肉の腫脹のため、精査を希望し来院した。

既往歴：帝王切開手術：輸血歴なし。花粉症：季節性。

アレルギー反応：なし。

家族歴：特記事項なし。

現症：

全身所見：体格は小柄ながら、肥満で多毛であった。栄養状態は良好。

局所所見：口腔外所見では左右顎下リンパ節にエンドウ大可動性の腫瘤を認めたが圧痛はなかった。顔貌は左右対称で丸顔であった。

口腔内所見では11相当歯槽部歯肉に30×20mm（胡桃大）の表面正常粘膜色滑沢で頸部に近づくほど赤味を帯びて一部に粗造で黄白色のびらん形成がみられる有茎性、弾性軟の不整形類球状の腫瘤を認めた。腫瘤頸部は11相当歯槽部歯肉より始まり可動性を呈した（図1）。下顎両側側切歯部に拇指頭大の歯石を認め左右側切歯を連結していた。全顎的に歯肉の腫脹と縁下歯石の沈着、易出血性を認めた。

X線所見：全顎的に中等度～高度の歯槽骨吸収を認めた。

歯周組織検査所見：21に6mm以上のポケット形成を認めた。歯石の沈着している下顎前歯部はポケット測定が不可能であった。12, 21, 22, 42, 45に動揺2度以上を認めた。

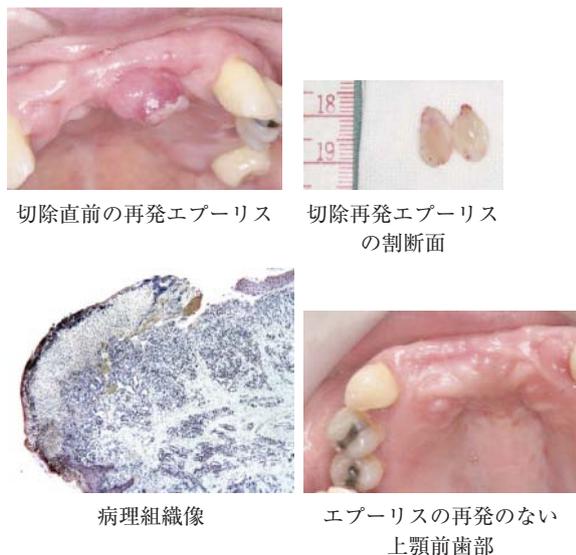
血液検査所見：尿素窒素（UN）とクレアチニン（Cr）に軽度の上昇を認めた以外は、cortisolを含めて異常値を認めなかった。

臨床診断：#1 上顎前歯部良性腫瘍、#2 慢性歯周炎、#3 欠損歯

治療計画：#1 歯口清掃指導（TBI）、#2 上顎前歯部良性腫瘍切除、#3 義歯装着

処置および治療経過：2013年1月初診時のX線所見と歯周組織検査、血液検査結果より上顎前歯部良性腫瘍、慢性歯周炎（歯石沈着）と診断し、TBIと歯周初期治療、上顎前歯部腫瘍の除去を計画した。血液





切除直前の再発エプーリス 切除再発エプーリスの割断面

病理組織像 エプーリスの再発のない上顎前歯部

図 3 再発エプーリスの切除とその後



完成上顎義歯 完成下顎義歯

口腔環境が改善した義歯装着前の口腔内 義歯装着時の口腔内

図 4 上下可撤性補綴物装着

た。5月下旬に44と45を抜歯し、同日、朝晩の歯口清掃（ペングリップ把持でバス法）と食後の含嗽を指導した。毎回の指導後にはSCを実施するようにした。さらに6月初旬、患者の歯口清掃状態が向上し毎朝晩磨くようになっていったため、磨く部位がわかるように鏡を用いてTBIを行い、その後、26を抜歯した。抜歯後の出血は前回ほどではなく、やっと歯口清掃の効果が見えてきた。2013年6月末、再発エプーリスの腫大化が停止、縮小傾向を示したため、再発エプーリスの切除を行った。切除物は13×14mmで、内部は充実物で満たされていた。歯口清掃習慣が向上したためか、出血があまりなく止血時間も数分であった。病理組織学的には膠原線維、線維芽細胞および毛細血管が目立つ上皮下結合組織の増生で血管周囲性に浮腫や軽度の慢性炎症細胞浸潤を伴っていることから再度肉芽腫性エプーリスと診断された（図3）。

再発エプーリス切除後1週間で抜糸をしたが、前回のようなエプーリスの再増殖傾向はみられなかった。今回は治癒傾向がみられたため顎堤が平坦化するのを待つことにし、前回同様に、毎朝晩、食後にペングリップでバス法を用い鏡を見ながら磨くようにTBIを行った。SCを行ったが、ほとんど歯石の沈着を認めず、患者のデンタルIQの向上と歯口清掃への興味、ブラッシングの積極性がうかがえた。2013年8月に上顎前歯部歯槽堤は上皮化が完了し平坦化したため、エプーリス完治と診断し欠損補綴のため義歯作製に移行した。TBIは前回内容に加えて、残存歯に対してフロスを使用するように指導した。

欠損補綴の作製は、個人トレーを用いて精密印象を行い、次いで咬合採得を行った。仮床試適時に24の知覚過敏と歯頸部のくさび状欠損が出現していたが、

これは過剰な歯口清掃と歯磨剤の不適切使用が原因と考え、TBI最中にブラッシング圧の軽減を指導した。くさび状欠損は設計義歯に支障がないと判断したためレジン充填を行った。2013年10月に上下部分床義歯を装着した。口腔内環境は良好で歯石の沈着を認めなかった（図4）。良好な口腔環境を維持できるように、再度TBIを行った。数回の義歯調整を経てメンテナンスへ移行した。義歯を装着するようになり、以前にまして明るくなり積極的に会話をするようになっていた。初診から約1年を経過しても、エプーリスの再発を認めず、良好な口腔環境を維持できているものと考ええる。

### 考 察

歯口清掃不良に起因した肉芽腫性エプーリス患者に口腔衛生管理後に上下顎義歯を装着できた症例を経験した。今回の症例では患者は中等度以上の歯周炎に罹患しており、さらに上顎前歯中央部に比較的大きな良性腫瘍があったため、審美的・口腔衛生的にも切除が必要であった。簡単なTBI後に抜歯と腫瘍切除を行った。切除腫瘍は病理組織学的に肉芽腫性エプーリスと診断された<sup>2)</sup>。しかし、出血傾向著しく抜歯後搔爬不良による組織の残存等を導き再発を来した。これは歯口清掃や周囲組織の炎症の除去が不十分で口腔管理が不徹底だったことに起因したと考える。そこで毎回の診療前に徹底したTBI、SCを行うことの必要性に迫られた。治療初期にはTBI内容を上の空で聞いていたものが、SCによって歯石が除去されるとその状況を維持したいためか積極的に聴くようになってきた。歯面の清掃状況向上に伴って患者のデンタルIQの向上がみられ、自身の口腔状態を理解し、興味を持ちづ

ラッシングに積極的になるという行動変容を導くことができた。これは、審美的や機能的にも障害となるエプーリスを再発させたくないという患者の強い思いもそのモチベーションの一端を担っていたと考える。歯肉の炎症症状が改善されてくると、出血傾向も改善・消退し、再発エプーリスの切除と搔爬も容易であった。その後、エプーリスの再発は見られず、義歯製作に至ることができた。義歯を装着するようになり、患者が以前にまして明るくなり積極的に会話をするようになっていった。今回の症例は口腔衛生管理が患者の口腔環境と生活態度の改善に重要である可能性を示唆した。

利益相反：本論文に関連し、開示すべきCOI状態にある企業、組織、団体はない。

#### 文 献

- 1) 佐藤 徹, 石橋克禮. 標準口腔外科学 (野間弘康, 瀬戸皖一編). 第3版. 東京: 医学書院; 2004. 238-240.
- 2) 石川悟郎, 秋吉正豊. 口腔病理学II (石川悟郎監修). 第1版. 京都: 永末書店; 1982. 229-240.

#### 著者への連絡先

村上 幸生 (代表者)

〒350-0283 埼玉県坂戸市けやき台1-1

明海大学歯学部 病態診断治療学講座 総合臨床歯科学分野  
TEL 049-285-5511 FAX 049-287-6657

E-mail : ymura@dent.meikai.ac.jp

---

## A case of a granulomatous epulis patient who now can wear dentures after proper oral hygiene care

Naomi Maruyama, Yukio Murakami, Akifumi Kawata, Yuichi Oi and Tadashi Katayama

Division of Oral diagnosis and General Dentistry, Department of Diagnostic & Therapeutic Sciences,  
Meikai University school of Dentistry

**Abstract** : Epulis is a localized growth of the resulting inflammatory-reactivity in gingiva. We reported one case of a patient with granulomatous epulis who now is able to wear dentures through daily oral care. The patient was a 56-year-old woman who was admitted to our hospital and was complaining about a rough sensation in her lower teeth. Her mandibular incisors had calculus deposits that covered the tooth neck area, and the maxillary anterior gingiva had a soft-elastic walnut-sized mass. After we diagnosed the maxillary anterior benign tumor and chronic periodontitis, we instructed her with oral health care technics and did professional mechanical tooth cleaning. Then, we removed the maxillary anterior benign tumor. Histopathological manifestation indicated granulomatous epulis. We instructed her second time with thorough tooth brushing technics, her oral condition improved because she followed our instruction for better oral hygiene care, and then we were able to make her dentures.

**Key words** : epulis, oral hygiene care, tooth brushing instruction, wearing dentures